

Archival Perspectives on the Emerging Digital Library

新しいデジタルライブラリにおける アーカイブ展望

Helen R. Tibbo

アーカイブは、基本的には図書館に収蔵されている。しかし、アーカイブと、図書館のコミュニティ・施設は、関連してはいるものの、独立した役割・展望・イメージを持った、全く別個の存在とされてきた。図書館は、公表された情報を収集、保存、整理、記述、そして利用可能にする。アーカイブされたリポジトリは、永続的な価値を有する、公共あるいは個人の公開されていない特別な資料に対して、非常に異なる方法ではあるが、これらの機能を実現する。たくさんの方の共通点があるにもかかわらず、図書館とアーカイブは並列の機関として機能し、時には他方の理論や実践方法を利用するが、大部分はそれぞれの慣習と印刷物において独立性を保ってきた。

デジタルライブラリ・コレクションは、図書とアーカイブ、両方のコンテンツを大量に収容する。すなわち、出版されているものといないもの、商用利用可能なものと公共施設に特有なもの、装丁されたものと収集されたもの、などなどである。個人的な素材を、デジタル化し寄贈するようにと、ユーザ/参加者に対して要請した University of North Carolina at Chapel Hill の *ibiblio* (www.ibiblio.com) のようなデジタルライブラリもすでにある。University of Virginia の *Valley of the Shadow Project* (jefferson.village.virginia.edu/vshadow/vshadow.html) は、南北戦争時の個人的なドキュメントや地方自治体の資料を収集している。アメリカの国立デジタルライブラリであると考えられている、*Library of Congress American Memory Project* のためにデジタル化された資料の多くは、本質的にアーカイブである (www.loc.gov/ammem)。

ハイブリッド型のアーカイブ・ライブラリは、デジタルライブラリとなりうる。したが

って、デジタルライブラリの設計と管理に技術的重点を置きながら、図書館とアーカイブ、両方の側面を適用する時期に来ている。アーカイブの理論と実践は、3つの領域において特に重要となるだろう。すなわち、何を蓄積し、何をデジタル化するか、それをどのように蓄積するか、アクセス方法をどのように提示するか、の3つである。

何を蓄積し、何をデジタル化するか

記録のライフサイクルに加えて、理論と実践の評価は、永続的価値を持つ資料の保持を容易にする。アーカイブ管理者は、よき蓄財者として知られている。実際、彼らは高度に熟練した選択者であり、一般的には、コレクションのオリジナル量の5%が蓄積されているに過ぎない。主に出版物を扱う図書館担当者は、扱う資料が、すでに出版に際して厳しいチェックを受け、またその資料自体に対する評価も受けているため、選別作業はかなり容易である。

アーカイブ管理者は、大量の公的および個人的なコレクションを扱い、そのコレクションが、作者と後世の人々、双方に永続的な価値を持つかどうかを決定する。また、研究者が有用であるものを見つけられるように、他のすべてを削除する。そのような識別は、アイテムの選別や整理、記述を通して、コレクションの状況を全体的に管理する間に行われなければならない。アーカイブの仕事の、最も知的で挑戦的で危険な側面である、すべてを保管するための評価は、特に文書氾濫の時代においては、何も見つけないことを意味している。しかしながら、きわめてまれな資料の売却は、それらを永久に失うことを意味する。また評価戦略は、どの印刷資料にデジタル化の価値があるかを決定する際にも重要である。

さまざまな同業者、コミュニティ、組織が、自分たちの歴史の保存に活発な役割を担っていない場合に、これらのドメインにおいても資料の代表的なサンプルを保存する収集戦略を、アーカイブ管理者は開発した。時として、これはコミュニティ・メンバーの口述の歴史や勧誘状と同じくらいの単純さを含んでいるが、他の場合には、全職業へのマッピングと記録保存のための戦略アプローチが必要である。参加者の良質な貢献を要求するデジタルライブラリは、寄贈者の関係、寄贈物、評価、およびドキュメントの信頼性に関して、アーカイブ管理者の仕事に大きな期待を寄せている。

どのように蓄積するか

アーカイブ理論は、政府、商用、および文化的な遺産セクターのための、権威があり信頼できるデジタル資料を、長期的、知的に保存するモデルの開発において、非常に重要なものである。証拠となる電子的記録の基本的特性を調査するアーカイブ・コミュニティにおける重要な仕事は、デジタルライブラリがどのようにそのデータの信頼性を保証することができるか、それを洞察する力である。国際的な協力の結果である Inter-PARES プロジェクトは、この分野の最も重要な例である。

アーカイブ管理者は、技術の旧式化を考慮して、デジタル資料の物理的保存と、データとメディアの劣化について調査を行ってい

る。提案されたアプローチは、データ変換とソフトウェアのエミュレーションである。アーカイブ管理者はまた、現在までに開始された多くのデジタル化プロジェクトが、アーカイブ資料を含んでいるため、デジタル化の最良の実践を測定する中心メンバーとなっている。この分野における確立された標準に代わるものとして、Kenny と Rieger の画期的な仕事である *Moving Theory into Practice: Digital Imaging for Libraries and Archives* は、Cornell University の図書館で開発されたベンチマーク・プロセスについて議論している。

アクセス方法をどのように提示するか

アーカイブは、デジタルライブラリに存在する、多数の情報と情報コンテナを扱う有効で効果的な技術を開発した。政府のアーカイブ中の資料が、数百万のドキュメントを保持していることは明白である。たくさんの文書コレクションはまた、写真、本、切り抜き、オーディオ、ビデオなどのファイルを含んでいる。資料の集約的および階層的な変更・記述は、データの出所、および状況、構造、アーカイブ・オブジェクトの多様性を保存する補助情報に基づき、量が莫大なため他の方法ではアクセスすることのできない資料に対するアクセス方法を提供している。インデックス付けが不可能な箇所、また電子ファイルのフルテキストの大きな範囲が効果的な検索を妨害する箇所では、アーカイブの管理と記述が、研究者に対してコレクションへのエントリーポイントを示している。Encoded Archival Description(EAD)のドキュメント・タイプ定義(アーカイブ・コミュニティにおいて開発された標準)は、この階層を保存する Web 上の検索補助情報の表現方法を考慮に入れており、このフレームワークへのデジタル・ドキュメントのリンク付けを許可している。

これらは、アーカイブ展望がデジタルライブラリに提供できるほんのわずかな方法である。アーカイブや文書資料は紙のフォーマットで蓄積されているが、アーカイブ管理者は他の情報技術者と違い、将来の遺産や歴史的、法的な証拠となるべき電子記録への挑戦に取

り組んでいる。デジタルライブラリは、世界で最も重要で永続的な情報の保存と供給のビジョンに向けて、結合されたアーカイブの理論と実践により進歩する必要がある。

Helen R. Tibbo (tibbo@ils.unc.edu) は、ノースカロライナ大学チャペルヒル校の the Frances Carroll McColl Term , および Library Science の教授である。

訳：角谷和俊（京都大学大学院・情報学研究科）